

第1回 鶴岡市文化会館管理運営計画検討委員会 会議録（概要）

日時：平成24年12月19日（水）

13時30分～17時

場所：鶴岡アートフォーラム 大会議室

〔協議事項〕	(1)管理運営計画の骨子（案）について (2)今後の進め方について（案） (3)文化会館に望む事業や活動について
〔出席者〕	東山昭子委員 梅津芳春委員 阿藤貞夫委員 柿崎泰裕委員 三浦譲委員 井上利也委員 菅原弘昭委員 今野美奈子委員 五十嵐大輔委員 蛸井美羽鳥委員 草加叔也アドバイザー 副市長 教育長 教育部長 社会教育課長 文化主幹 芸術文化主査 芸術文化主査 芸術文化係主任 芸術文化係主事
〔公開・非公開の別〕	公開
〔傍聴者〕	1名

- 1 開会（文化主幹）
- 2 市長あいさつ（副市長）
- 3 委員の紹介（自己紹介）
- 4 委員長の選出
委員長 東山昭子委員 委員長代理 穂積恒雄委員
- 5 委員会の運営について（案）
芸術文化主査：資料（6ページ）により説明
委員一同：承認
- 6 報告事項
(1) 整備基本計画について
(2) 設計について
芸術文化主査：資料（4ページ）により説明
- 7 アドバイザー講話
アドバイザー：資料（5ページ）により講話

8 協議

(1) 管理運営計画の骨子（案）について

(2) 今後の進め方について（案）

芸術文化主査：資料（7ページ、8ページ）により説明

委員一同：承認

(3) 文化会館に望む事業や活動について

委員長：第1回委員会なので課題を共有しあうために、文化会館に望む事業や活動について、ある程度ざっくりばらんな各人の思い、新文化会館に期待するもの、活動内容、事業等について、お話をいただきたい。

委員：今の文化会館でも20年くらい前までは自主事業がなされていた時代があって、私自身もその時に自主事業を選定する委員に当たった事がありました。自主事業が無くなって、今の文化会館は貸館用務だけで進められています。文化会館の整備基本計画の中に、支える・育てる・高めるとあり、教育委員会の中でも、コーラスで外国の指揮者を呼んでいただいて、育てる高める活動みたいな事はされておりますが、基本的には民間、つまり自分たちでやっていて、自分たちでペイするという活動になっています。それから、貸館というもののあり方。今まで鶴岡で芸術文化活動がなされて支えてきましたが、新しい会館で同じように使えるのか。自主事業が始まったとしたら、色んな分野の方が手を上げて、これでこれでといっぱい出てくると思います。そういうのを鶴岡市としてはどのように進めていくのか。今まで自主事業が無かったが急に入ってくるため、今まで使っていた人たちが追い出されてしまうわけですから、自主事業と貸館という部分の割合をどのようにバランスを取っていくのかも考えざるを得ない事です。また、どこでもそうなんですけれども、芸術祭のシーズンというのは基本的にほとんど埋まってしまい、当然そこは貸館事業しかなくなります。また、今でも同じ時期にみんな使いたがって困っていたり、逆にどこも使いたくない時期もあります。そういう現実の部分と理想の部分があり、どこまで理想をしゃべっていいのか悩んでしまうところです。

委員：関連して、今、委員がおっしゃったように、以前は自主事業が結構ありました。それが途絶えてしまった。でも、文化庁としては助成金を出して、色んな事業をやってくださいというようにして、推薦が来ていると思うのですが、市民はどういう鑑賞をしたいですかというような問いかけもなく、私どものところには全然伝わって来ない。その辺を、貸館との兼ね合いをうまく刷り合わせながら、昔に戻ってやってもらいたい。あれを見たい、これを聞きたいという声を発信できるような仕掛けも必要と思います。いずれにしても、国でせつかく予算を取ってあるわけですので、それを是非鶴岡で使いたいなと思います。

委員：付け足して、現在やっている事をどこまで活かしていただきながら、そういう理想とのバラ

ンスを取って、この運営計画が出来ていくのかどうか気になりました。

委員長：夢と希望だけではなくて、例えば利用者の団体からすれば、低額で使えるとか、あるいは費用無しで使わせていただくのが最高に嬉しいわけですけど、それで施設の運営が成り立たなくなってしまうと困るわけです。そういったところの具体的な討論の進め方の方向で、今ご質問が出ました。

社会教育課長：まだハッキリまとまってはいませんが、実態を踏まえた形の管理運営計画は必要だと思います。新しい文化会館では、自主事業を積極的におこなっていく形になると思いますし、運営計画を策定していただく中で、遠慮なくおっしゃっていただければ、それを市側で整理させていただきます。また、市側の考え方も出させていただきながら、それで調整していくという事でもよろしくお願います。それから、自主事業の関係で、確かに様々な補助的な事業もありまして、手を上げているものもありますが、なかなか当たらず思ったとおりに出来ないという事もあります。

委員長：草加先生。自主事業と貸館事業というのはここが違うのだという部分を、話し合いを揃えていただくのに一度説明していただけますでしょうか。

アドバイザー：貸館事業も実際には自主事業の1つだと思っていただければいいと思います。貸館事業というと、施設を貸しているだけと思ってしまうので、こういう管理運営計画書の中では、施設提供事業や、空間支援事業と名前を変えて、自主事業の1つとする事もあります。貸すだけじゃなくて、貸す事によって、団体にもっと育って欲しいとか、活動を活性化できるような効果を期待して、こういう名前を付けます。他に、自主事業の中にどんなものがあるかということ、例えば創造事業という、作品を作っていくという事業があります。それから、育成事業。人材育成のためにワークショップをやるとか、楽器などのクリニックをやるとか。それから、ある程度活動をやられている人たちを更に良くしていこうという事で、活動支援事業。例えば演劇をやられている団体に対して、演出家を用意してあげて、演出をやってもらうだとか、場合によっては、照明デザイナーだとか、音響デザイナーだとかプロの人を呼んで支援してあげることによって、その活動を更に良くするだとか。それから、普及事業。日本では西洋音楽が入ってきて以来、なかなか伝統芸能というのは、認められなくなっている。特に、日本舞踊だとか、邦楽は瀕死の状態なのです。そういうのを、普及させていこう、地域の伝統文化を発掘していこうという事業を、発掘事業と呼んでいます。こんな事もやったらどうか、あんな事もやったらどうかというようなものがいくつか出てくると、それを事務局がまとめてくれると思います。

委員長：ありがとうございました。貸館という言葉自体を使わないで、新しい文化のイメージを作っていくということもあるのかなと思いますが、自主事業もそういう意味で、貸館事業も含めて、

新しい文化の創造という形でいけるように、アドバイスをいただきました。

委員：自主事業や貸館事業は、当然運営組織がおこなったり管理するわけですが、今回の進め方の話の中で、運営主体・組織については5回目の検討委員会に入っておりました。ただし、ある程度その運営主体・組織について、行政主体のグループが組織するのか、あるいはNPOの方々が行うのかももう少し明確でないと、貸館や自主事業、収支、広報など何をするか、全くその方向性が変わってくると思います。全体の流れとしてはこの骨子の進め方でいいと思いますが、もう少しその辺のイメージもしながら、進めて欲しいと思います。自分は利用者ではなかったもので、現状の運営組織の良かった点、悪かった点をもう少し明確にして、問題点とかの洗い出しをした上で、今回新しく組織するグループが何をするべきなのかを考えていければと思います。例えば、ファンドレイジング（資金調達）は簡単な事ではないと思うし、それこそ色々な企業からのバックアップで億単位の支援をしていただければ、運営事業自体も全然違うものが出来てくると思いますので、組織をもう少しどうするのかという事を明確にしたいと思いました。

委員：私はこの委員の委嘱のお話をいただいた時から、夢を語ってもいい場なのかなという思いをしたところです。つまり、全く今までにない物、まだ日本全国どこでもやってない事をしてみたい、つまり夢に限りなく近いのです。今、高校生である若い青少年や10代の方々が、これから先を見通した時に、鶴岡にこういうものが出来た、こういう事をやれる会館があると喜んでくれるようなものは何なのかと考えました。今、具体的に一つあるのは、やっぱり今はネット社会で、情報機器が世界中で使われていますので、この部分も取り入れないとこれから20年、30年となった時に、遅れを取ってしまわないのかなと考えます。イメージ的には、インターネットを最初に立ち上げた時の、色んなところに入っていける検索サイトの最初の画面。新しい文化会館が、いわば最初に立ち上げたあの画面になり、ここを経由して鶴岡のありとあらゆるものに入っていけるようにしたい。このような形で、鶴岡が持っているものを世界に向けて発信も出来るし、逆に瞬時に自分たちの持っていない情報、眠っている情報を相手方から貰えるというイメージがあります。例えば、部屋に大きなスクリーンみたいなものを設置可能だとした場合、自分たちが遠くまで出かけて行かなくても、他所の芝居とかを直に見れるようにしたい。若者がここで鶴岡の芝居を作りたい、でも、まず勉強するために、そういうものに触れてみたいというような事が直ぐ出来る施設。そして、自分たちが作り上げたものを今度は相手方に飛ばしてやって、自分たちはこんなものを鶴岡の地で作りたいたいと思っているけども、どう思うかと反応を聞いてみるなど。夢的に近いのですけれども、そんな事が出来るような施設が出来たら、学校だけでやっているレベルの活動が、物凄く大きく広がるかなと。この部屋に行けば、自分の興味のある物が見られたり、情報がすぐにあると、高齢者の方も若い方も、入りたくなるような文化施設が出来ると思います。もちろんこれを実現するには、情報の設備であったり、専門の学芸員がいなきゃいけないとかハードルは高いと思いますが、どうせやるならば、日本全国どこもやってない、そして、今までの固定観念である文化会館というものをぶち破るような、そういう物も一緒に加えること

が出来るのならば面白いのかなと思いました。

委員：運営主体のところについて、NPO 法人がいいのか指定管理者がいいのか、そういった方向性もある程度決めないと、自主事業も役所でやってくれ、文化庁から予算もうまく取ってくれと、みんな役所におんぶに抱っこでは、せつかくこの40億50億かけて作る施設が堅くなってしまう。色んな発想があって、ネットでという話も当然必要ですけども、やっぱり心が通い合うような、生身の人がステージに上がって演じる、声を出す、色んな活動が出来て、それを肌で感じられるという事が、何よりも大事な事なんじゃないかなと感じます。そういう事ができるような運営、また、どういった形を取れば市民が利用しやすいのか。それから、道路網も良くなっているわけですから、我々が山形や仙台に行くのと同じように、山形や仙台からも来ていただけるような活動が出来れば、鶴岡の伝統文化も含めながら、発信できる1つの大きな施設になっていくのではないかと思います。そんな意見を7回に渡って色々みなさんと一緒にお話していければなと思います。何よりも、運営主体がどうなるかによって大きく変わるのじゃないかなと私の頭の中にあるものですから、その辺も含めながらこれから検討していければと思います。

芸術文化主査：今、委員の方から運営主体の話がありました。昨年も、整備基本計画を検討する中でも、やはりそれは切っても切り離せない大きい問題だという事で、運営計画の最後に、書いておきますので、皆さんでもう一度見ていただいでよろしいでしょうか。「整備基本計画」の17ページ、運営計画の大きい2つ目の項目、運営体制や組織という事で、近年の公立文化施設の管理運営については、市が直接運営する方向と指定管理という2つになっております。現在、鶴岡市では、財団法人鶴岡市開発公社を指定管理者として、施設の管理を委託しています。お解りのとおり、主に施設の貸館中心の管理の状態でございます。ただし、新しい文化会館の管理運営については、これまでと同様に、指定管理者制度による民間活用を基本とした運営というスタイルを考えていきたいとしていますが、その後にあるように、基本理念に基づく事業運営を継続して遂行するためには、市民の参加・協力による運営が重要と考えておりますので、新たな指定管理者にもなりうる運営体制の構築も視野に入れながら、何らかの市民による運営組織づくりを検討していきましようかと結んであります。よって、基本的には、指定管理者制度による運営を市では考えていますが、その指定管理者は、どういう姿が鶴岡市にはベストなのかという事に関して、この管理運営計画検討委員会の場で、是非検討をお願いしたいと考えております。

委員長：広範囲な活動を含む新しい文化会館として、先ほど委員のおっしゃっていた専門の学芸員を含むような検討になるのかと思っていたところです。

委員：私はお話を聞いていて、自分は何も分からない市民である事を再確認いたしました。お話を聞きながらついていけるように努力をしていたところです。指定管理者制度により民間活用をとるという基本計画の17ページに載っている事は、私も読んできたんですけども、これは変わる可

能性はどこまであるだろうかとか、色んな事を思い巡らせてお話を聞いておりました。

委員長：基本計画は総論でしかないので、総論の部分を具体化する討論がこの委員会だにご理解していただければいいのではないのでしょうか。だから、こういうような人に、こういうふうに動いてもらって、こういうのを作りたいという夢と希望でもいいと思います。現状を乗り越えていけるような、現状の課題をどう把握しているかという部分もあって、具体的に使われている委員さんの発言が先行してしまいましたが、ご自由にお話し合いくださって結構です。先ほどのところで、情報発信等が出来るスペースが少しあった方がいいなとありましたが、そのような施設というのは、草加先生あるものなのでしょうか。

アドバイザー：最近アーカイブという言葉を使いますが、舞台芸術や音楽芸術のストックを作っていくという事は、凄く重要な公立施設の役割になっています。今までどんな事が行われたかとか、自分の会館でやっている作品の記録を作っていくとか、それを公開していくとか、最近の公立ホールの中には、そういう舞台芸術情報センターみたいな所を作っているところがあります。私どもがお手伝いしたホールの中には、ロビーの一部に書棚とビデオコーナーみたいなものを作って、自由に見れるようにしているホールがあります。書籍はある程度買ったり、寄贈されたものを並べたりしているだけですが、それでも、500 とか 600 冊くらいは並んでいると思います。図書館とも差別化をして、その施設には舞台芸術、伝統芸能、音楽芸術だけの資料を揃えるようにすると関心のある人たちが集まってきます。学校帰り子どもたち、これから何か音楽をやろうという子どもたちが集まってきて、ロビーで調べ物をしたり、ビデオも置いてあるので過去にやった事業を開いてみたりします。それから、人材の情報というのが凄く重要で、今度公演をやるので照明を手伝ってくれる人いませんかとか、今度こういう公演をやるのでボランティアをしてくれる人はいませんかという、人材の情報交換をする事が出来るようになっていたり、色んな活用があると思います。ですから、情報というのは、これからの施設にとっては不可欠なものになっていくだろうと思います。ロビーの活性化のためにも役に立つと思います。

委員：私が新しい文化会館に期待したいと思っている事は、やっぱりいい施設いい物があるといい人が呼べて、いい人が来るとお客さんもいっぱい来て、鶴岡に来てくれる人が増えるというのは間違いない事だと思います。来た人が、あそこの会館良かった、また来てほしいなと思ってもらうのも必要です。私は鶴岡の市民なので、鶴岡にいい人を呼んで、いっぱいお客さんが来て活性化して欲しい。一番は、子どもたちに本物をいかに見せるか、いかに感動を味わってもらおうかだと思います。舞台に立った時の感動というのは、舞台に立った者しか分からなくて、学校の合唱の発表だろうと、部活の発表だろうと、やっぱり舞台に立って人に聞かされると何かを感じると思うのです。そこから、色んな物に感動が持てるようになっていたり、心が豊かになったりする。それを持って、育っていったら、こんなに素晴らしい事はないのではないのでしょうか。そういう点で、施設として、いいものを作っていけたらと思っています。

委員長：今、若い人に街中に出てきてもらって、若い人のやっているものを見せてもらいたいということがあって、例えばシルクガールズも含めた総合の学科の発表などは、表に出てきてもらえるから、市民が学校にどうぞ入れてくださいと言って行くよりは、楽に見られると思います。そういう市民参加が出来るという点で、非常に開かれていると思います。

委員：子どもたちも含めて、人間というのは、環境でずいぶん変わるものではないのかと思います。素晴らしい環境の中で、子どもたちが発表できれば、それなりの自信と誇りにも当然なるでしょうし、文化会館への魅力も大きくなっていく。子どもたちが魅力に感じてくれるという事は、非常に大きい事ではないかと思っています。人が集うという事もありましたけども、やはり何かの魅力が無ければ人は集まらないだろうという事を感じました。先ほど来、情報もその1つではないかというご意見もあり、その通りだと聞いていましたが、でも究極を辿っていくと、人は人でしか育っていかない部分があるのではないのでしょうか。当然、文化会館に対するスペシャリストみたいな方は当然必要でしょうけれども、ゼネラリストみたいな方も絶対に欠かせないような気がしてなりません。そこに行くと誰かがいて、何かがあって、そしてまたそこに足が向く。というのが人間ではないのかと思ったところです。

委員長：現在の文化会館では、何も無い時は「閉切り」の文字だけ大きく見えて、真っ暗になっているという現状があります。新しい文化会館では、誰かがいつも動いているのが見れたり、練習しているような所が見れたり、いつも明かりがあるというようになればいいと思います。それに、世界的な設計者が設計をするわけですから、見に来る人もいるのではないかと私は意識しています。

委員：平成23年度までの利用状況を見てきたのですけれども、利用回数は262日でした。ですから100日くらいは会館が空いているという状況のようです。一方、来てくれた方は9万5000人というような状況で、分野も民謡・歌謡曲から日舞・伝統芸能、寄席・大衆芸能、演劇、ミュージカル、バレエ、クラシック器楽など色々あるようでした。現在の利用に加えて、新しい施設が出来たら、自主事業を含めながらどんな活動が出来るのか、365日、毎日利用がある会館にしていくためには、どうしたらいいのかという事も考えていければいいと思います。次回で結構ですので、こういった実態の資料も出していただきたいです。

文化主幹：現在の利用状況や実態の資料については、早めに準備して委員の方に送らせていただきます。次回までその辺の資料も見てくださいながら、またご意見をいただければと思いますので、よろしく願います。それから、先ほど来、ご意見をいただいている中で、どうしてもホールを主体として考えるイメージが強いと思うのですけれども、確かに今の文化会館はホールしかありませんが、今度の新しい文化会館については、創造部門として練習室もありますし、多目的に利用出来るリハーサル室もあります。これにより、今までにはない利用、活用も出来ると思いま

すし、何も催し物が無くても、人の動きがある、賑わいがある、そういう交流が出来る空間作りをしていきたいと思っておりますので、こういった点からも色々ご意見を頂戴できればと思います。

委員：私は今度出来る新しい文化会館に、鶴岡市や日本の現状の問題点を解決する様々な糸口が見つかるのではないかと、大きな期待をしております。ご存知の方が多いかと思いますけど、日本経済不景気のため、最近工業団地の工場閉鎖などの問題が発生しております。今までは工業にどちらかという大きく依存していた部分を、鶴岡の観光産業として文化会館を起点とし、経済の活性化や、新しい物を産み出せるのではないかと期待しております。新しい文化会館が、世界的に有名な妹島さんの設計という事は、大きな力になっていただけないかと思っております。それから、鶴岡の文化の継承、温故知新というものも、鶴岡には何か1つキーワードとして、大切な言葉となっていくのではないのでしょうか。古い伝統文化を大切にしつつも、先ほどから色々お話があったITなどにも取り込んでいき、全国に情報発信などをしていけば、また1つ文化会館の活動として、大きく全国的に注目されるものになるのではないかと思っております。あと、今まで文化会館に興味の無かった7～8割の方々が、こういった形でインキュベート、活動に参加していけるかも大きな1つの課題だと思います。これらの様々な課題が解決していくと、街の賑わいや若者の県外流出なども防げるのではないかと思います。運営組織も今後の大きな1つの問題点だと思いますが、鶴岡にこういった運営組織がっているのかという事は、この委員会で考えていければと思っております。そういった感じで、新しい文化会館が鶴岡の大きなターニングポイントとなるように、皆さんと会議を通していい意見を出し合えればと期待しておりますので、よろしくお願いします。

委員長：ありがとうございます。あちこちで、伝統文化の継承も含めて、子ども芸術祭という子どもを主体にした芸術祭も展開されているような状況がありますが、現在の芸術文化協会などを見ても、どうしても高齢化が進んでいるような状況がありますので、新しいエリアも入れながら、そういう子どもの部分も含めて、未来形成が出来るようにしたいと思います。

～追加資料配布～

委員長：ただいま、資料をいただきましたけれども、説明をしていただけますか。

芸術文化主査：管理運営計画を作ると言ったところで、どんな計画になるのだろうと不安なのではないかと思っております。色んなところの計画書を皆さんにお配りすれば、こういうものなのだ、それぞれの施設で違うものだという事をお分かりいただけると思うんですけども、私の手元に今8つ、9つあります。その中でアドバイザーをお願いしております、草加先生が平成15年にまとめた、沖縄県浦添市のてだこホールという施設の管理運営計画の中に、事業案という形で

はありますが、具体的にこんな事業、こんな回数、こんな日数というような一覧にした資料がありましたので、先生に了解をいただきまして、急遽お配りしました。別にこうでなければならぬ事はないのですが、こういった事を沖縄県のとだこホールとしては、事業案として計画の中にまとめていますという事例です。是非参考にさせていただければと思います。

委員長：先生、何か補充してお聞かせいただけることありますでしょうか。

アドバイザー：見ていただければ分かるとおおり、1ページから、大きく先ほども言いましたけれど、育成事業とか、創造事業とか、交流事業とかというようにまとめています。大きいのはそれです。その中で、市民文化活動支援というように類型化しているのですが、この類型化する作業は事務局がやってくれるので、こんな事をやって欲しいというのをたくさん出していただくといいと思います。例えば、ジュニア育成事業、演劇とか合唱とか器楽とかそういう事ができないとか。下の方にある創造事業は、他人のふんどしですよ。Jazz in 浦添って、今やっていることをここでやって欲しいとか、今街の中でやっている事を、この文化会館でもやろうと言っているだけなので、これでお金がかかるわけではありません。だから、新しい施設で出来る事はこんな事があるのではないかと、こういうお宝があるからそれも文化会館の事業の1つに取り込んでくれ、というような事を、たくさんアイデアを出していただくと、これが出来てくる。最後に、これにお金を入れていって、いやあこれは大変だって言った時に、取捨選択が始まるという事だと思えます。それから、人を集めるためにもっと広い目で事業を考えると、例えば、新しい施設に喫茶のようなものがあって、それを市民で運営しようというのも事業の1つかもしれませんし、別に練習室で練習しなければいけないわけではなくて、今回のホールはどちらかというとロビー・ホワイエが大変広い計画を作ろうとされているので、そういう所で人材育成のためのワークショップをやろうとかですね。それから、練習場所としてロビー・ホワイエを貸していこうというものもあっていいと思います。何となくこんな事があつたらいいなという事を次々に。それから、既存の活動があるので、是非それを育てて欲しいというアイデアを出していただく事で、ネタがたくさんある方が事務局もまとめやすいと思いますので、そういった事を参考にさせていただければと思います。ホール事業というのは夜が中心ですけれども、練習だとか人材育成というのは昼間利用です。特にお子さんから来ていただく事業というのは、本当にホールの昼間利用、賑わいを作っていただく大きな核になりますので、それを部屋の中でやっているよりは、ロビーだとか皆さんに見えるところでやっていただくというのが、賑わいには凄く貢献するだろうと思います。文字にすると何か難そうですけれども、これに近い事を家の近くでやっているとか、今まで公民館でやっているというような事がたくさんあると思いますので、是非気付いた事を上げていただければと思います。

委員長：使われている実態の資料を送ってくださるそうですから、突合せながら、こんな事もやって欲しい、こんな事もあつたらいいなという部分を出していただければと思います。

委員：質問ですが、現在文化会館を管理している法人のことなのですが、新しい文化会館が出来た時に、この法人が果たしてどうなるのか、新しいものを作るために解散するのか、それとも新しいものを作るために継続的に残っていくのかという事が1つ疑問に思いました。今回の草加先生の資料にも書いてない事で、もう1つ。前から友人たちと話をして思ったのですがけれども、この間の震災があった時に、被災地の方で大きい会館が避難場所になっていたわけですがけれども、鶴岡で何が起こるか当然わからないわけで、その時に文化会館のような新しい施設が十分な避難場所になりうるような非常用電源を持っているだとか、色んな補助機能がある施設になる事が出来たらいいなと思っています。そのために、自然エネルギーを常時持っていて電気が使えとか、寝るところがいくらかあるとか、喫茶とかが普段から営業されているとかして、飲食も多少なり出来る状況を作れるとか、そういうふうな事で、避難場所としての価値というのも作り出して行くことが必要ではないかと前に話をした事がありまして、それに関してはあまり触れていないと思っていました。最後に1つ、クラシックとか好きなのですがけれども、新潟とかでやっているラ・フォル・ジュルネという大きいイベントのような、あれくらいのもを作れるくらいのモチベーションのある団体になっていければいいなと思っていました。

委員長：今までの震災等の避難場所というイメージだと、小真木原の体育館の方が寝るのには早いし、隣に温泉も出ているしとフツと思いました。使用目的によっては、また別の形で構成されるのかもしれませんが、今の計画だと、平場の部分は楽屋や会議室、リハーサル室という形で小さくなっているイメージがあります。建物の具体的な面積等も見ながら、色んな形で検討できればと思いますが、設計の方で考えていらっしゃる部分なのではないかと思ったりしたところです。先の運営の主体の変更の部分については、これからの討議になっていくと思います。どうしていくのかというより、どうあって欲しいかという意見を申し上げていく方が、建設的になっていくんじゃないかなあとと思います。

委員：この新しい文化会館では、地域づくりという目線で、子どもたちに体験をさせたいなと特に思います。これからどんどん地域の人口が減っていき、高齢者が増えると予測されていますので、そういう中で地域を作っていくには、若い世代の力が凄く大事だと思います。若い世代が地域の人と触れ合って、どういう地域づくりをしていくのか、そういう事も学べる会館であれば、また違う面が出ていいのではないかと思います。だから、この施設が高校生や青年の活動として使える場になって、ここで何か新しいアイデア、地域づくりの考え方が生まれたりするというような役割なども、この施設が担うようになれば、本当に素晴らしい事だと思います。交流のきっかけになるという役割も担ったりすると、従来の文化会館のイメージとはずいぶん変わったものになって、私的には新しい方向というのを出せるような事になるのかなあと思ったところです。

文化主幹：先ほど委員の方からご質問がございました、今の文化会館の指定管理者の件ですが、色んな施設の指定管理者として業務を担っていただいておりますし、施設の管理だけではなくて、

土地の管理だとか様々事業をやっておりますので、無くなるという事はございません。

委員：色んな観光の意味もあるし、建物という形の魅力もある。だけど、例えば30年、40年、50年経った時に、残念ながら建物の魅力では、文化会館が持つわけではない。やはり、内容をどうしていくかという事に対する方策が一番大事であろうと思います。そういう点で、鶴岡のいいところは、使い勝手が悪い現文化会館でも、市民が物凄く色んな事を苦勞して、どういうふうにホールを使うか考えながらやってきた。施設が悪かろうが良かろうが、芸術を凄く高めていくという情熱がある所だと思います。他では、ハードとしてはいいホールだが、それに対するソフトが育ってないというホールがいっぱいあります。だから、ソフトが育っている鶴岡はいいのだけでも、さっき誰かがおっしゃっていた、ソフトを継続していくのが大変です。私は文化というのは、1人の情熱が育てるのだ、民主主義で文化は育たないのだと思っています。情熱というのは1人の人間が持って、それが波及してくのだと思います。ただ、問題は、次の情熱に繋げていけるかです。鶴岡でも芸術文化協会の会員がどんどん高齢化しています。それをどういうふうに、例えば新しい文化会館が出来た時に、いわゆる次に発展できる芸術文化協会になれるのかも、大きな1つの課題だろうと思っています。人の想いが育っていく、繋がっていく文化会館になって欲しい。そのために、どういう運営管理をしていったら、それを助けていけるのかみたいな事を、是非具体的に話し合っただけで活かせればと考えます。

委員長：ご賛同いただけるような方向性ではないでしょうか。今、委員がおっしゃっていた、ハードの部分だけじゃなくて、ソフトの部分で魂を育む、あるいは血の流れを作る運営組織という事でやっていきたいという部分に、皆さん頷かれたのだらうと思いますので、その方向でいきたいと思っています。最後に、草加先生の方から、こんな事を考えてきて欲しいということも含めて、アドバイスをお願いします。

アドバイザー：あまり遠くにあるものより、もう少し皆さんの身近にあるものを、まず見つけていただくこと。それから、やっぱり未来の鶴岡を担っていただく子どもたちをどう育てていくのかという事は、凄く重要だと思います。どうせ投資するのなら、長く鶴岡に貢献してくれる人たちに。一度は鶴岡を離れるかもしれないけれど、鶴岡に育ったという記憶をちゃんと作ってあげる。僕も岡山の倉敷で育ったという記憶をちゃんと持っています。そういう子どもを育ててあげて、ひょっとするといつかは帰ってくるかもしれないし、帰りたいと思えるような子どもたちを作っていく事が重要であろうと思います。それから、優れた演劇鑑賞会、優れた音楽鑑賞会をしたいというのも大きな事業だと思います。劇団四季を見たい、聞きたいというのも、これから振り向いてくれる人たちを育てるので重要です。まず、劇場の敷居を跨いでくれる、ロビー・ホワイエに入ってください。そこで、最初はお茶を飲んで帰ってもいいのです。次は、出来れば客席まで入ってもらって、そうやって、育てていく、引き込んでいく仕掛けを考えていただくと、色んな事業が見えてくるような気がします。もちろん、社会貢献的な役割としては、先ほどお話があったよ

うな、広域避難場所みたいな役割も担うことがあります。劇場ホールは、天井が高かったりするので、客席は絶対避難場所としては使いません。使うとしても会議室だとか、ロビー・ホワイエというところですか。それから、おっしゃっていただいたように、設備として蓄電池がある事とか、発電という事も重要だろうと思います。もちろん、広域避難場所になると、毛布や水、食糧の備蓄という部分が出てくるので、こうなってくると性格が違ってくるので、それはまた違うレベルで議論されるべきだろうと思います。自分たちがどんな事ができるかという事を考えていくと、色んな事が試せるだろうと思います。是非、柔らかい頭で考えていただければと思います。

委員長：ありがとうございます。それでは、この基本計画をもう一度再読して、次回はまた基本計画に沿って、どんな顔つきのどんな人を作るかというような形で、お考えいただきたいと思います。

委員：今の文化会館で、リハーサルや練習として使っている団体が実際にいると思いますが、おそらく新しくなると、私たちも使いたいと予約が殺到すると思われそうです。限られている部屋を、どうシェアしていったらいいのかも本気で考えておかないといけない。内陸の施設で場所取りに行った事があるのですが、意外と喧嘩になる要素になるのです。本当にそういうような事が起こりうるので、限られた部屋をみんなでどうやって使っていくのかという事も、この場で話していく必要があると思っています。あともう1つですけど、これも別のところで申しわけないのですが、ある施設だと、大学生までは施設の使用料が半額だったり、あるいは3分の1くらいで使える施設もあります。それをすると何がいいのかというと、部活で1回くらいはホールを本番前に使いたいという時に凄く利用しやすいという事があります。新しい文化会館で、それは出来るかどうか分かりませんが、具体的に利用していく上で、どうやったらいいのかという事も、一緒に考えていけたらいいと思っています。

委員長：練習場の争奪戦は考えられる事ですので、何か考えていかなければいけないでしょうし、どこまでの利用料金の援助が出来るのかといったような部分についても、皆様との共通理解で検討するようにしたいと思います。今日は色んないっぱい宿題をかかえて帰られて、次回の検討委員会の席でまた協議できればいいなと思っています。よろしくお願いします。

9 その他

委員・事務局：特になし

10 閉会（文化主幹）

以上